

第 48 回東北医学検査学会

“熱意と誠意!”

第 48 回東北医学検査学会は、9 月 29 日～30 日の両日に盛岡市のいわて県民情報交流センター（アイーナ）で開催された。

盛岡は、NHK 朝の連続ドラマ『どんど晴れ』の舞台となっており、その今熱い盛岡を会場として、ドラマの主題とも思える（伊藤岩手県会長に確認したわけではありませんので、あくまでも私の印象ですが）、「熱意と誠意」をテーマとし、一般演題 96 題、12 のランチョンセミナー、7 つのレクチャー、教育講演と一般公開講演の内容で行われた。

教育講演は「激動の医療改革時代における検査部の役割—積極的なチーム医療の実践による患者サービスの展開—という演題名で、岩手医科大学医学部教授の諏訪部章先生にお願いした。検査部での実践例を示しながら、それぞれの施設から求められる検査室のあり方をご教授していただいた。

一般公開講演は、500 名余りの一般市民でホールがごった返すほどの盛況で、作家の五木寛之氏をお招きして「今を生きる力」という演題名でのご講演となった。自らの命を絶つことの無意味さと、生きるとことの大切さのご講演は、聴講した者の心に感動として残った。



また、情報交換会での余興として行われた「各県対抗わんこそば早食い競争」は、大声援の中で白熱した戦いとなり、とても楽しい思い出となった。というようにいずれのイベントも、学会関係者の「熱意と誠意」にあふれた学会であった。

どんど晴れ(めでたしめでたし)

【小野 静】

地区学会便り

西に進むと関ヶ原、米原と続き、古くは東海道東山道、中山道、京と鎌倉を結ぶ鎌倉街道が、現代では東海道本線、東海道新幹線、名神高速道路が走る東西の交通の要所です。

関ヶ原合戦では、杭瀬川を挟んで石田三成が率いる西軍が大垣城に、徳川家康側の東軍が勝山（おかしやま）に陣をはった地です。豊臣秀吉が一夜にして築城したと言われる墨俣一夜城も、この地にあります。

元禄 2 年(1689)、松尾芭蕉が「蛤のふたみに別行秋そ」を詠んで「奥の細道」の旅を終えた事から、「奥の細道むすびの地」「芭蕉と出会う街」として、市をあげて俳句文化にも力をいれています。10 月の「芭蕉蛤塚忌全国俳句大会」、4 月には「奥の細道むすびの地舟下り芭蕉祭」、そして東西全国俳句相撲、市民俳句教室、インターネット俳句などが開催されています。会場となった大垣市スイトピアセンターに 16 万人俳人の町として俳句の応募箱があったのが印象的でした。

歴史と自然の溢れるこの大垣市で「私たちが果たすべきこと—求められる臨床検査技師像—」をメインテーマとして開催した学会内容は、検査技師のあり方、業務改革、検査技師教育、外部精度管理、臨床支援等々、各分野で活躍されている方々によるシンポジウム、一般演題 97 題、ランチョンセミナー、機器展示が行われた。750 名を超える参加者は、7 会場を飛び回りながら 2 日間にわたり、活発な研究成果の報告と情報交換が行われた。

また、日本尊厳死協会副理事長の荒川迪生先生による「末期状態における生命倫理—死の選択権利とその法制化を考える—」と題した教育講演では、医療に係わるものとして末期医療を、公開講演では頸椎損傷によって



介助を受けながら車椅子生活を余儀なくされている近森リハビリテーション病院のソーシャルワーカー、上田真弓先生による「自分らしく

生きる」が開催された。改めて「私たちが果たすべきこと」は、なにがあるのか考えさせられた。

【高木義弘】

第 46 回中部医学検査学会

“奥の細道むすびの地 大垣市”

中部地区は、第 46 回中部医学検査学会を 9 月 29 日（土）から 30 日（日）に大垣市で開催しました。中部医学検査学会は、中部 6 県が輪番で担当し開催していますが、大垣市での開催は初めてです。学会報告の前に、少し大垣市を紹介します。

地下水が豊富なことから水の都と呼ばれ、日本列島のほぼ中央に位置しています。岐阜県の西部、かつての美濃国の西に位置するため「西美濃」「西濃」の中心です。

第 42 回九州医学検査学会

“がばい かわらんぼ…!”

10 月 6～7 日の両日、九州の佐賀県佐賀市で第 42 回九州医学検査学会が開催されました。

佐賀県は、北は玄界灘、南は有明海、そして福岡県・長崎県・熊本県にはさまれた伝説と陶芸とグルメのくにです。佐賀の「がばい」ところは、まず弥生時代の歴史遺産吉野ヶ里遺跡、伝統を今に伝える白石焼、伊万里焼、